

# 第2回 周南市スマートシティ推進協議会

協議資料

令和3年12月10日  
周南市企画部情報企画課

## § 1. モデル地区住民等との課題共有

### 1 ワークショップのまとめ

#### 【キーワード】

#### 【ワークショップで出た意見要旨】

#### 買い物 外出

- お年寄りが歩いて買い物できる場所が少ない
- 徒歩で買い物に行き、荷物を持って帰宅するのが大変
- 車が無い人はタクシーで買い物に行く
- トイレが少ない、トイレをきれいにしてほしい
- 外に出ない高齢者を対象とした施策を検討してほしい

#### 健康 づくり

- 健康志向はあるが、健康づくりをする一歩が踏み出せない
- 健康講座はあるものの、単発開催や定員越えで参加できない
- 高齢者は家から出る人と出ない人の二極化になっている
- 坂が多い地域のため、徒歩で移動する場合は運動にはなる
- 運動機能の低下によって、自宅の階段を登れない人もいる

#### 居場所 学び 子育て

- 子供たちの居場所や集まれる場所が欲しい(市民センターや児童館等)
- 雨天時に遊べる場所が少ないので、室内アクティビティが出来る場所が欲しい
- 大学生の遊べる場所(ボーリング等)が無く、遊ぶ時は広島まで行ってしまふ。スケボーパーク等の遊び場も欲しい
- 趣味がいろいろあるので、いろいろ行ける場所が欲しい
- イベントをしてほしい
- 塾代が高い。タブレット等を活用して、子供に応じた指導をしてほしい
- 将来の子育て環境をイメージできるようにしてほしい(市内にはどのような遊び場があるか、休日に子供と楽しめる要素は何かあるか等)
- 同世代の相談相手がほしい(特に子育て世代)

#### 情報の 集約化

- 地域団体の活動情報がわからない
- 体育館や部屋の利用状況の把握や割り振りが出来るシステムが欲しい
- 垣根を越えて交流できるように情報を統一してほしい
- 災害時にはいろいろな情報が欲しい
- 知ろうとしないと情報が来ない
- 病院の情報が一括されていない、評判も知りたい
- 必要としている人に適切な情報を届ける必要がある(現状は届いていない)

# § 1. モデル地区住民等との課題共有

## 1 ワークショップのまとめ

### 【キーワード】

### 【ワークショップで出た意見要旨】

#### 住み続けたいと思う街

- ・ 大都市には働く場所も魅力的な場所もあるため、若い人が市外に出ると帰ってこない
- ・ 住みやすく、きれいな街になったらいい
- ・ 日頃から地域で、困りごとを解決する取組や、より住みやすくするための取組を行う必要がある

#### 地域との繋がり

- ・ 日頃から気軽に繋がる場やコミュニティの構築が重要
- ・ 地域との繋がりが希薄であり、人と人の繋がりが魅力ある街に繋がるのではないか
- ・ 施設等のハード面も大切だが、人と人の繋がりも必要である
- ・ 若い社会人はボランティアに参加してくれない

#### 安心安全な暮らし

- ・ 緑地や夜道は暗く、一人で歩くのが怖い
- ・ 野犬が多くて驚く。通学の途中で野犬を見かけて危険。安心安全に遊べるようにしてほしい
- ・ 交通量が多く歩行者が横断するときに危ない。地域内の道路全般において狭い道路や暗い道が多い。
- ・ 集団で登校しないと児童の事故が心配
- ・ 災害時にいつどのくらいの災害が発生するかがわからず、不安である
- ・ 親が離れたところに住んでいるので心配である

#### 安心安全な公園

- ・ 夜のジョギングを安心して出来るようにしてほしい
- ・ 野犬の影響でマダニも多く、子供を草むらで遊ばせられない
- ・ 暗いので見通しをよくしてほしい
- ・ 木々が多い茂り、防犯上良くないので切ってほしい

#### 緑地の管理

- ・ 周南緑地は維持管理されていないのが問題(トイレ、駐車場、草木)
- ・ グリーンベルト(緑道)があるが、傷んでいる

#### 公園の魅力づくり

- ・ キャンプ場はあるが今はほとんど利用されていない
- ・ 少子化の進行で町内に幾つかある小さな公園を持て余している
- ・ 緑地の活用計画を大学と連携すれば面白いのではないか
- ・ 緑地に人が来やすくなる工夫が欲しい
- ・ 駐車場、公共交通、お店が少ない
- ・ グリーンベルトは重要な地域資源
- ・ 大会の様様をWEB配信してほしい



# § 1. モデル地区住民等との課題共有

## 2 地区の困りごと・ニーズと解決された姿(案)

- ワークショップを通して把握した**地区の困りごと・ニーズと解決された姿**を、現時点で以下のように整理。

### 地域生活・活動での困りごと・ニーズ

#### 1. 買い物・外出・健康づくり

##### ●買い物・外出

- ・身近に歩いて買い物する場所が少ない
- ・徒歩で買い物に行き、大荷物で帰宅するのが大変
- ・車がない方はタクシーで買い物をしている
- ・どの世代も買い物する場所に困っている
- ・トイレが少ない
- ・外に出ない人が心配である（外に出ない人もサポートする施策を検討してほしい）

##### ●健康づくり

- ・朝から緑地で運動する高齢者がいる一方、まったく外出しない高齢者もいる
- ・地区内は坂が多いため、徒歩で移動する場合は運動にはなる
- ・健康づくり講座が開催されているが、開催時期や定員越えで参加できない
- ・健康意識は高いが、取り組めていない
- ・運動機能の低下によって自宅の階段を登れない人がいる

#### 2. 居場所・学び・子育て

##### ●居場所・学び・子育て

- ・市民センター、児童館等、屋内で小さな子供が遊べる場所や子供の居場所がほしい
- ・遊び場（ボルダリング、ポーリング、スケボーパーク等）、活動する場所がない
- ・子供に応じた指導をしてほしい
- ・非常時以外も気軽に繋がる場やコミュニティの構築が重要
- ・世代を超えた繋がりが希薄
- ・子育て世代が少なく、相談相手がいない

##### ●魅力が乏しい

- ・若い人が住みたい、住み続けたい、という魅力が必要である（遊び場が無いなど街の魅力が乏しく、現状は外に出ていく人や戻らない人が多いので）
- ・周南緑地に人が訪れやすくなる工夫が欲しい
- ・公園利用者の購買や飲食等の場が乏しい
- ・地区内での催し等に関する情報がない

#### 3. 安心安全

##### ●野犬

- ・通学途中に野犬を見かけて危険
- ・野犬によるマダニ被害がある
- ・子供が小さいときは自分で公園に行ってしまうが、野犬が多くて安心して遊べない

##### ●交通安全・生活安全

- ・緑地公園内を通過する時、暗くて怖い場所がある
- ・道路や公園において、夜は暗い場所が多く、一人で歩くのが怖い
- ・公園の維持管理が行き届いてなく、不安な場所がある（木が覆い茂っている、草が多い、トイレが傷んでいる）
- ・道路が狭くて暗く、さらには交通量が多い場所があるので、交通事故が心配

### 解決された姿（案）

#### 歩いて外出しやすく健康的な生活を楽しんでいる

宅配や遠隔診療等のオンラインサービスを利用できるとともに、身近に買い物、憩う場所があり、気軽に外出もできる。買い物や医療機関の受診と併せて歩く機会をつくったり、公園やスポーツ施設での運動を行い、健康的な生活を楽しんでいる。

#### 遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている

子供達が、放課後や休日、友達や家族と遊んだり、学んだりしている。地区住民や来訪者が、周南緑地公園を憩いやスポーツ、新たなアクティビティの場として活用し、地域への愛着を深めている。

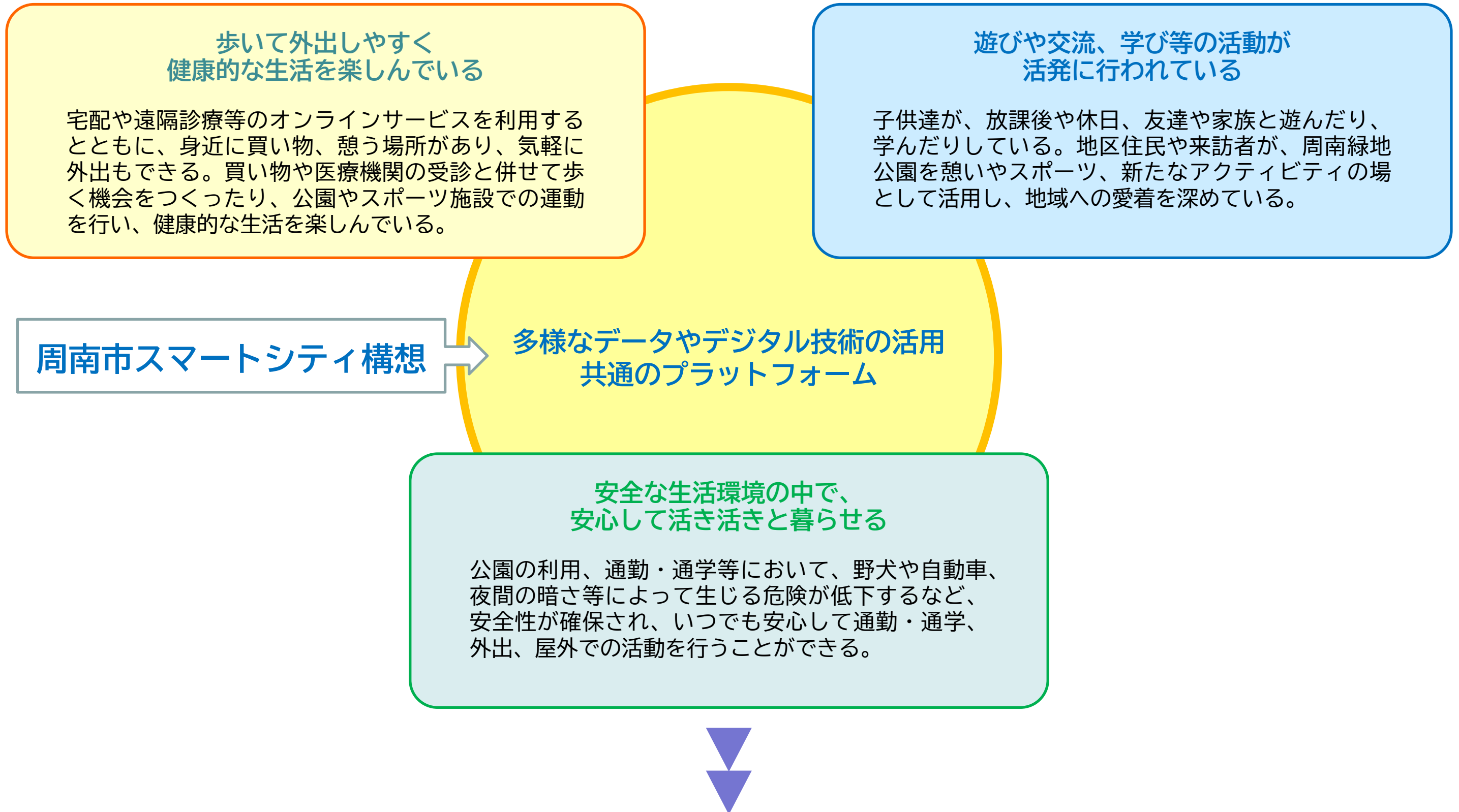
#### 安全な生活環境の中で、安心して生き生きと暮らせる

公園の利用、通勤・通学等において、野犬や自動車、夜間の暗さ等によって生じる危険が低下するなど、安全性が確保され、いつでも安心して通勤・通学、外出、屋外での活動を行うことができる。

## § 2. モデル地区における取組の方向性

### 1 モデル地区の取組方針(案)

- 将来的な社会実装を見据えて、各年度での想定するゴールとそのために必要な行政、企業・団体などの取組メニューを事業計画として取りまとめる。



多様なデータや先端技術等を活用し、活力ある豊かなスマートシティ周南へ変革

## § 2. モデル地区における取組の方向性

### 2 重点プログラムの取組メニュー例

方針	主な課題	重点プログラム	KPI	取組例	デジタル技術の活用例
<p><b>歩いて外出しやすく 健康的な生活を楽しんでいる</b></p> <p>宅配や遠隔診療等のオンラインサービスを利用できるとともに、身近に買い物、憩う場所があり、気軽に外出もできる。買い物や医療機関の受診と併せて歩く機会をつくったり、公園やスポーツ施設での運動を行い、健康的な生活を楽しんでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂道が多い地形を踏まえ、お年寄りの<b>徒歩移動</b>に対するサポートが必要</li> <li>お出かけを促進する地区内での催しや講座等に関する<b>情報提供</b>が必要</li> <li>自宅から気軽に買い物に出かけられる<b>場所の確保</b>が必要</li> <li>歩く楽しみや自らの<b>健康を実感できる仕組み</b>が必要</li> </ul>	<p><b>まち全体ウォーカブル&amp;ウェルネスタウン化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちや公園をそれぞれのペースで歩くことを習慣にする人を増やし、健康的に生活できるまちづくりを進める</li> </ul>	<p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩数（日平均）</li> <li>体力年齢、骨密度等健康パラメータ</li> <li>徒歩での外出率</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経年変化</li> <li>山口県全体、市全体との比較</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーキングイベント等の通年開催</li> <li>地形とカロリー・負荷を結びつけたウォーキングコースの設定</li> <li>健康・歩き方講座の開催（市民センター等で開催、医療機関・フィットネスクラブとの連携）</li> <li>周南緑地内へのウォーキング・ランニングステーションの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山口県の健幸アプリとの連携によるデータの収集</li> <li>ウォーキングデータ（コース・頻度等）から新たなコース設定（アクティブコース、ライトコース等）</li> <li>講座と参加者の体力・<b>健康データとの結び付けによる健康指導</b></li> <li>ランニングステーション等での体重等測定から健康データの見える化</li> </ul>
<p><b>遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている</b></p> <p>子供達が、放課後や休日、友達や家族と遊んだり、学んだりしている。地区住民や来訪者が、周南緑地公園を憩いやスポーツ、新たなアクティビティの場として活用し、地域への愛着を深めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周南緑地公園等地区内で、若者に支持される新たな<b>アクティビティ</b>が必要</li> <li><b>公園（スポーツ施設）施設利用者の飲食等</b>を支える機能が必要</li> <li>公園等、地区内で開催される催し物やイベントに関する<b>効果的な情報提供</b>が必要</li> </ul>	<p><b>若者や子供の愛着を育てるホームタウン化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊び、憩い、学び等の日常的な活動を、地区内の施設、空間を使って行う子供や若者を増やし、愛着を持って生活できるまちづくりを進める</li> </ul>	<p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>周南緑地公園利用者数・滞在時間（20歳代以下）</li> <li>施設利用者数（20歳代以下）（市民センター、学校放課後利用等）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経年変化</li> <li>平日・休日比較</li> <li>他の公園、施設等との比較</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周南緑地公園内の新たなアクティビティやイベントの実施</li> <li>市民センターや教育機関における学び等のプログラムづくりと情報発信（スマートシティの取組のプログラム化と学生の参画）</li> <li>周南緑地公園利用者向け飲食サービスの提供</li> <li>イベント等の情報集約とパーソナライズされた情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周南緑地公園利用状況（人の動き・滞留状況）のモニタリングによる見える化とイベント企画</li> <li>タブレット等を活用した学び、リモートを活用したワークショップ開催等のコミュニケーション</li> <li>人の動き・滞留状況に応じた自動運転ロボットによる移動式店舗やデリバリーサービス</li> <li>地区内の遊び、学び等プログラムに関する情報集約、登録者や地区滞在者へのプッシュ型通知</li> </ul>
<p><b>安全な生活環境の中で、安心して生き生きと暮らせる</b></p> <p>公園の利用、通勤・通学等において、野犬や自動車、夜間の暗さ等によって生じる危険が低下するなど、安全性が確保され、いつでも安心して通勤・通学、外出、屋外での活動を行うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルタイムに野犬の出没情報を把握でき、<b>野犬との遭遇の確率を低減させる仕組み</b>が必要</li> <li>夜の暗さや交通事故の危険性を気にせず、安心して外出できる公園内や<b>道路環境の改善</b>が必要</li> <li>子供や高齢者が安心して行動できる<b>見守りの仕組み</b>が必要</li> <li><b>災害も含めたリスクに関する情報共有の仕組み</b>が必要</li> </ul>	<p><b>安心安全に生活できるセーフティタウン化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日中、夜間を通した外出時に危険に感じる出来事の発生を減らし、安心して生活できるまちづくりを進める</li> </ul>	<p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野犬目撃件数</li> <li>不審者発生件数</li> <li>交通事故発生件数</li> <li>外出を不安に感じる市民の割合</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経年変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野犬や不審者の出没に関する効果的な情報提供、近づけない働きかけ・護身手段の確保</li> <li>防犯対策や歩行環境整備、街路灯設置による明るさや樹木剪定による見通しの確保</li> <li>周南緑地公園や施設内等、自宅内外での子供や高齢者の見守り体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野犬や不審者のモニタリングと特定、出没傾向の把握、リアルタイムでの通知、<b>近づけない仕組みづくり</b>（アラーム、護身アイテム等）</li> <li>日照と人や車の流れに応じた照度の<b>マネジメント</b></li> <li><b>位置情報や見守りカメラ、家庭内センサー</b>等を用いた子供や高齢者の見守り</li> </ul>

※あくまで住民からの意見を基にした課題の解決策の検討例を記載しています。個別の取組は、地区住民や企業、団体、庁内担当課等と検討しながら具体化していきます。



## § 2. モデル地区における取組の方向性

### 2 重点プログラムの取組メニュー(案)

#### まち全体ウォーカブル＆ウェルネスタウン化

ウォーキングイベントの通年開催

健康アプリの活用によるウォーキング状況の見える化

健康・歩き方講座の開催

体力や健康データの共有と正しい歩き方指導への活用

ウォーキング・ランニングステーションの設置

体重・体脂肪測定

地形とカロリー・負荷を結び付けたウォーキングコースの設定

ウォーキング実績のモニタリング、歩数・距離・消費カロリー等の情報提供

#### 安心安全に生活できる セイフティタウン化

野犬等に関する情報の収集と提供、近づけない仕組みづくり

センサー等によるモニタリング、リアルタイムでの通知、アラームや護身アイテム等

街灯設置による明るさや樹木剪定による見直しの確保

日照や人・車の流れに応じた照度のマネジメント

#### 若者や子供の愛着を育む ホームタウン化

スマートシティの取組そのものの学習プログラム化と学生の参画

リモート活用したワークショップ開催等の日常的コミュニケーション

新たなアクティビティの設置／遊び・学び等のプログラムづくり

プログラムやアクティビティに関する情報集約と提供／利用状況のモニタリング

周南緑地公園利用者向け飲食サービスの提供

移動式店舗への効果的な情報提供

子供たちや高齢者の見守り体制の構築

位置情報や見守りカメラ、家庭内センサーを活用した子供、高齢者等の見守り



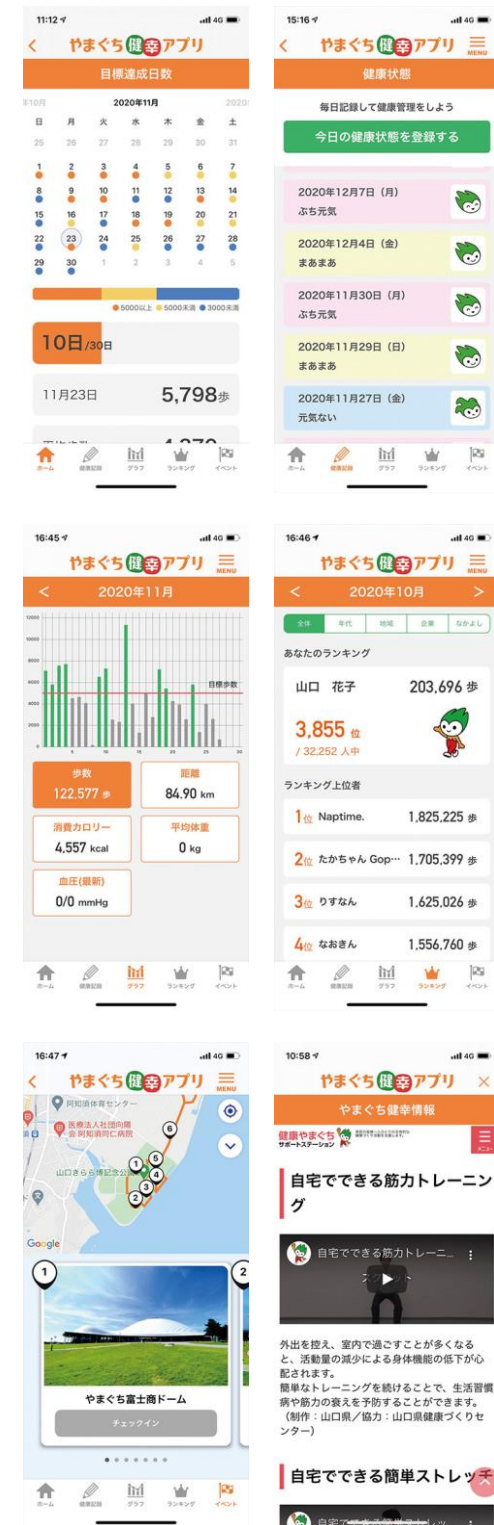
## § 2. モデル地区における取組の方向性

### 3 重点プログラム1：まち全体ウォーカブル&ウェルネスタウン化～歩いて外出しやすく健康的な生活を楽しむまち～

#### 取組メニュー検討のたたき台

##### <活用が期待できるデジタル技術>

##### ●山口県健幸アプリ機能紹介（一例）



出典：山口健福祉保健局公式サイト

##### 【目標達成カレンダー】

毎月の目標達成状況をカレンダー形式で表示。

##### 【健康記録】

体重・血圧・健康状態などを記録することができる。

##### 【グラフ】

月間の歩数・距離・消費カロリー・体重の変化をグラフで表示。

##### 【ランキング】

全体・年代・地域・企業・なかよしグループの個人ランキングを表示。

##### 【ウォークコース】

県内のウォーキングコースを表示します。GPSを使ってチェックポイントをクリアすると、ポイントが獲得できます。

##### 【健康づくり動画】

自宅やオフィスで簡単にできる健康づくり動画を配信しています。外出を控え、運動不足の方にもおすすめです。

##### 【イベント参加】

対象のイベント会場へ行って2次元コードを読み込むとポイントが獲得できます。

##### ◆デジタル技術との連携による具体的な活用案

##### (1) ウォーキングイベント等の通年開催

- ・地区内でウォーキングイベントを開催。
- ・モデル地区内の参加者（アプリ登録者）の歩行距離（歩数）等が把握でき、自分の順位等が確認できるようにする。
- ・歩行距離に応じたポイントを付与し、地区内の店舗等でサービスを受けられたり、総合順位上位者への特典を与える。

⇒歩くことに関するモチベーションを高め、健康意識を向上

##### (2) 地形とカロリー・負荷を結びつけたウォーキングコースの設定（体力、目標に応じたコースを作成・提案）

- ・WEB-GIS技術を用いて、地区内の距離や道路の勾配を計測。
- ・住民が自らコースを作成、設定できることで歩くことの楽しみを増幅させる。
- ・作成されたコースを他の方が利用し、評価することで、作成者・利用者が楽しめる。
- ・距離や勾配、及び歩行者の体重等に応じて、消費カロリーや負荷をリアルタイムで計算し、歩行者に通知する。

⇒ウォーキングイベントへのデータ活用、日々の目標設定への活用

##### (3) 健康・歩き方講座の開催（市民センター等で開催、医療機関・フィットネスクラブとの連携）

- ・各地区の市民センター等で、正しい歩き方講座を開催する。
- ・その際、自身の健康に関するデータや日々の歩行状況、または歩く際の姿勢等に応じて、科学的な観点から指導を行う。
- ・それらのデータは医療機関やフィットネスクラブ等とも共有され、診断や指導に活用される。

⇒個々に応じた診断・指導による健康寿命の延伸

##### (4) 周南緑地公園内へのウォーキング・ランニングステーションの設置

- ・まち全体をウォーキングスタジオと捉え、その活動をサポートする拠点を周南緑地公園内に設置。
- ・施設内では、更衣室、シャワールーム、サウナ等のリフレッシュ機能、体重・体脂肪、骨密度、筋肉量等の健康管理機能を設置。
- ・歩行距離に応じた料金割引や、健康データや歩行目標に応じたルート提案等のサービスを提供。

⇒日常生活の中で気軽に運動を取り入れることができる環境の整備



## § 2. モデル地区における取組の方向性

### 3 重点プログラム2：若者や子供の愛着を育むホームタウン化～遊びや交流、学び等の活動を活発に行えるまち～

#### 取組メニュー検討のたたき台

##### <活用が期待できるデジタル技術>

##### ●流動人口データの機能紹介（一例）



出典：株式会社Agoop HP

##### 【流動人口データの取得】

スマートフォンのアプリ等から位置情報データを取得し、道路や施設単位での人の動きを把握。

##### 【流動人口データの可視化】

解析人の動きや流れを時間帯別に把握し、グラフ等で可視化する。

##### 【混雑情報の提供】

秘匿化した位置情報を用いてエリアや施設の混雑度を地図上に表示。

##### ●デリバリーサービスの機能紹介（一例）



無人宅配ロボ  
**DeliRo**  
デリロ

- ✓最大50kgまでの大容量！
- ✓スマホでロック解除なので安心！
- ✓複数ロッカーで複数軒の同時配達！

【自動運転ロボットによるデリバリー】  
スマートフォンのアプリ等から注文を受けて、公園周辺店舗から注文品を配達。

##### 【自動運転ロボットによる移動店舗】

移動店舗として公園内を周回し、ドリンク等を販売。

出典：株式会社ZMP HP

##### ◆デジタル技術との連携による具体的な活用案

##### （1）周南緑地公園内の新たなアクティビティやイベントの実施

- ・稼働率（利用頻度）の低い空間に、新たなアクティビティ（ニュースポーツ）を仮設し、稼働率の変化を見る
- ・AIカメラの設置により、空間内での人の動きをモニタリングし、日や時間帯に応じた利用状況を分析する
- ・利用状況についてはリアルタイムに市民にも提供する

⇒利用状況の見える化、施設の利用促進

##### （2）遊び、学び等のプログラムづくりと情報発信（スマートシティの取組のプログラム化と学生の参画）

- ・タブレット等を活用した学び、プログラミング教育を促進する
- ・公園や各施設（市民センター、学校放課後利用）等、地区内で開催される遊びや学び等のプログラムの情報を一元化し、個人、各家庭が希望する情報をタイミングよく提供する
- ・デジタル技術を活用したまちづくりの取組自体を学習プログラム化し、リモート技術（SNS投稿集約システム等）を用いた学生と地域住民の日常的なコミュニケーションによる協働関係を構築する

⇒学生と地域住民の協働関係の構築、地域に対する愛着形成の促進

##### （3）周南緑地公園利用者向け飲食サービスの提供

- ・現公園内には購買等の利用者向けサービスが乏しいため、利用状況に応じて移動式店舗等の出店を促す
- ・各施設の予約状況やイベントの開催状況等の方法を共有し、店舗に提供する
- ・公園周辺の店舗と連携した、デリバリーサービスを提供する（電子決済）

⇒公園利用者の利便性向上、公園の活性化

##### （4）イベント等の情報集約とパーソナライズされた情報発信

- ・公園内、さらには市内で開催される催し物、イベント等の情報を集約して一元管理する
- ・個人の趣味・嗜好に応じた情報をプッシュ型通知する

⇒交流人口の増加、公園の活性化

## § 2. モデル地区における取組の方向性

### 3 重点プログラム3：安心安全に生活できるセイフティタウン化～安心して暮らせる安全性の高いまち～

#### 取組メニュー検討のたたき台

##### <活用が期待できるデジタル技術>

##### ●音の周波数を用いた野犬対策技術機能紹介（一例）



出典：楽天市場 HP

##### 【超音波での害獣対策】

20kHzを超える人には聞こえない超音波を用いて、騒音問題などを生じさせずに獣害対策を行える。動物に応じた対策グッズが市販されている

##### ●しゅうなん通報アプリ機能紹介（一例）



出典：しゅうなん通報アプリ HP

##### 【通報内容の選択】

候補の中から通報する施設・通報内容を選択・入力。

##### 【写真の登録】

異状箇所が画面に映っている写真を撮影または選択して登録。

##### 【位置情報登録】

地図より通報する箇所の位置情報を選択。

##### 【詳細情報の入力】

通報内容について詳細な情報を入力。

##### ●スマート街路灯機能紹介（一例）



出典：NEC HP

##### 【維持管理】

照明をLED化・ネットワーク化することで一元管理でき、維持管理を効率化する。

##### 【センサー機能】

周囲の状況を把握しデータとして蓄積する。

##### ◆デジタル技術との連携による具体的な活用案

##### （1）野犬や不審者の出没に関する効果的な情報提供、近づけない仕組みづくり

- ・「しゅうなん通報アプリ」に登録された野犬の情報を活用して、野犬が多く目撃された箇所や時間帯等を分析、カテゴライズして住民に周知する。
- ・野犬出没が多い箇所と時間帯までを詳しく周知することで、野犬に遭遇する確率を下げるとともに、安心安全な公園利用に寄与する。
- ・位置情報と不審な行動が登録できる仕組みを構築する（現在のアプリを活用）。
- ・野犬や不審者を近づけない仕組み（アラーム、護身アイテム、位置特定 等）を導入する。
- ・小学生、公園利用者等に携帯型ブザー＋位置情報機器を配布し、野犬や不審者に遭遇した際の臨時的な対処が行えるようにする。

⇒危険の見える化、リアルタイムな情報提供による危険の回避、適切な対応による被害の減少、危機回避

##### （2）防犯対策や歩きやすい環境整備として、街路灯設置による明るさや樹木剪定による見通しの確保

- ・緑地の一部では、街灯がなく樹木が茂っていることもあり、夜の暗さが増し利用を避ける住民がいる。防犯対策や夜間でも安心して利用できる環境づくりのために街路灯を設置する。
- ・街路灯は常時点灯すると電力コストが増すため、歩行者等が付近を通過する際に点灯する仕組みとする。
- ・不審者情報箇所、野犬出没箇所、人流データ分析から街路灯の最適な設置場所を選定する。また、各データ分析から樹木剪定の優先場所を決定する。これらを総合的に管理する照度のマネジメントの仕組みを導入する。

⇒安心して利用できる環境整備、防犯対策

##### （3）周南緑地公園や施設内等、自宅内外での子供や高齢者の見守り体制の構築

- ・子供が周南緑地公園で安全に遊んだり学んだりできるように、子供を両地区全体で見守る仕組みを構築する
- ・各公園や施設内と連携し、センサーやAIカメラ等を活用し子供たちの居場所が特定できる
- ・AIカメラ等の設置、自宅内のセンサー等により高齢者の安全を確保する

⇒地域全体での見守り体制構築、安心感による施設利用の促進



## § 2. モデル地区における取組の方向性

### 4 重点プログラムを支えるデジタル技術例

※短期は1～2年、中長期は3～5年程度を導入までに要する。

デジタル技術 ○：基盤となる仕組み △：要素技術	導入に向けた視点				
	技術動向	導入主体	データの連携の有効性	infra、制度等の変更の必要性	導入可能時期※
○データ分析のためのWeb-GIS	◎ ・現時点で既に普及済み	自治体 民間サービス提供者	◎ ・サービス関連情報の連携により連携により高付加価値なサービスを提供	必要なし	短期
○情報集約と活用・周知のための情報プラットフォーム	◎ ・現時点で既に普及済み	自治体 交通事業者	◎ ・多様なサービスを提供する基盤として機能	必要なし	短期
△健康管理アプリ	◎ ・現時点で既に普及済み	民間サービス提供者	○	必要なし	短期
△ネットワークカメラ AIセンサー	△ ・AIセンサー・カメラは開発途上	自治体 民間サービス提供者	◎ ・見守りアプリとの連携により高付加価値なサービスを提供	必要 ・カメラ設置が必要	中長期
△見守りアプリ	○ ・現時点で技術的には確立	自治体 民間サービス提供者	◎ ・ネットワークカメラ・AIセンサー等との連携により高付加価値なサービスを提供	必要 ・センサー類設置が必要	中長期
△人口流動データ分析	○ ・現時点で既に普及済み	自治体 民間サービス提供者	○	必要なし	短期
△SNSの投稿集約システム	◎ ・現時点で既に普及済み	民間サービス提供者	○	必要なし	短期
△周波数等を用いた野犬対策	○ ・現時点で技術的には確立	民間サービス提供者	○	必要なし	短期
△スマート街路灯	○ ・現時点で技術的には確立	自治体	◎ ・ネットワークカメラ・AIセンサー等との連携により高付加価値なサービスを提供	必要 ・インフラ整備が必要	中長期

### §3. スマートシティの実現に向けたまちづくりの進め方

#### 5 住民目線・課題起点のまちづくり

地域の困り事を起点に、デジタル技術を活用した新たなライフスタイル（＝スマートシティ）を実現していくためのまちづくりのステップを示す。

各取組について、住民、企業、団体、行政等が緊密に連携・補完しながら、**スモールスタート**で「**企画**」「**設計**」「**実装**」「**検証**」を繰り返し、社会実装ひいては自分らしいライフスタイルを実現する。

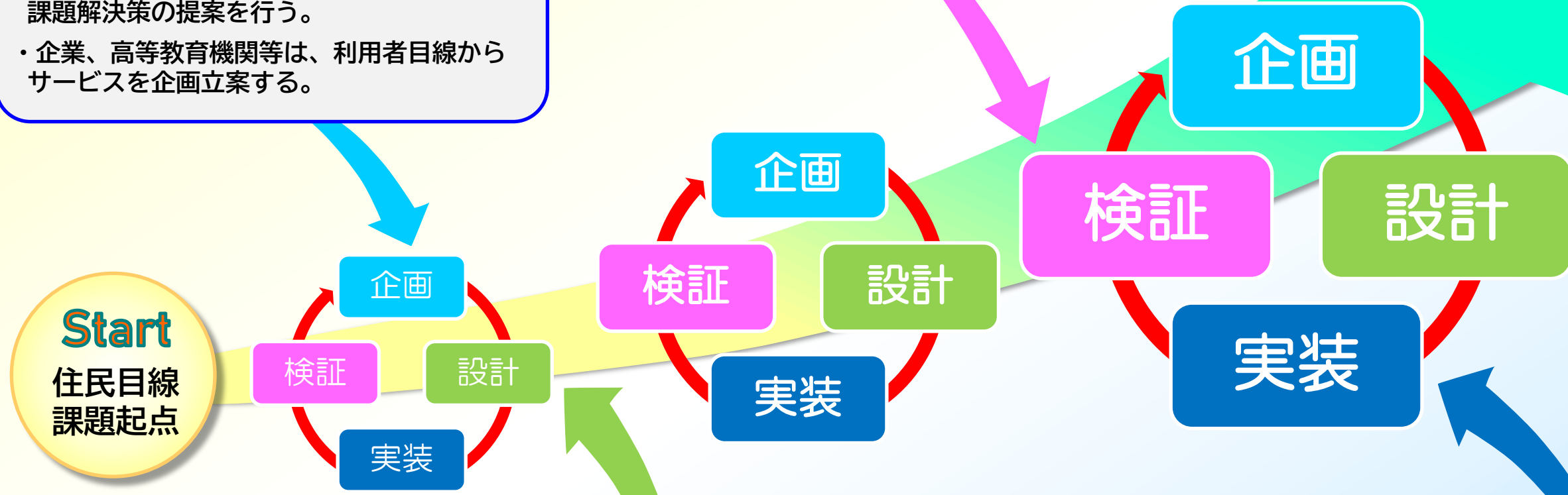


- ・住民、団体等は、地域課題を共有するため、ワークショップ等による話し合いや学びの場に参画する。
- ・住民は、ワークショップ等の市民参画、スマートシティ推進協議会を通じて、課題解決策を行政、企業、高等教育機関等と検討する。
- ・学生がまちづくりに参画し、住民等とともに、課題解決策の提案を行う。
- ・企業、高等教育機関等は、利用者目線からサービスを企画立案する。

- ・住民や学生等は、アンケート、ヒアリング等を通じて、継続的に取組を検証する。
- ・企業、高等教育機関、学生は、データを解析して、サービス等の改善につなげる。

- ・企業、高等教育機関、行政等が、役割分担に応じて、地域課題を解決する取組（サービスモデル）を検討する。
- ・企業、団体、行政等の実施主体は、活用可能なデジタル技術やデータについて検討し、併せてデータの取扱いルールを明確化する。

- ・企業、団体、行政等は、課題解決に資する取組について、サービスの提供等を行う。
- ・住民は、実証や実装において、積極的に参加し、サービス等を利用する。
- ・企業、団体、行政等は、収集したデータを蓄積し、必要に応じて共有する。





## §3. スマートシティの実現に向けたまちづくりの進め方

### 6 企業・団体との連携の必要性

#### ■ スマートシティコンソーシアム構築の意義

スマートシティコンソーシアムは、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができる人間中心の社会を実現のため、企業や団体、行政などが官民連携して地域課題の解決や新しいサービスの創出に取り組む事業共同体である。スマートシティに関わる各主体が課題を共有し、スモールスタートで着実な実践を積み重ねながら、長期にわたり知恵と技術を出し合って改善を重ねていくことが必要である。

#### ■ コンソーシアムの役割と必要性

##### 新たな技術や知恵の集積と活用

- オープンイノベーションを進める役割
- 実証から実装フェーズへの展開を図るための共同体

##### 事業者間の連携を促進するための利害調整

- 競争を越えて協調を進める役割
- ビジネスモデル化を図るために必要な共同体

##### データの収集と活用に向けた統合管理

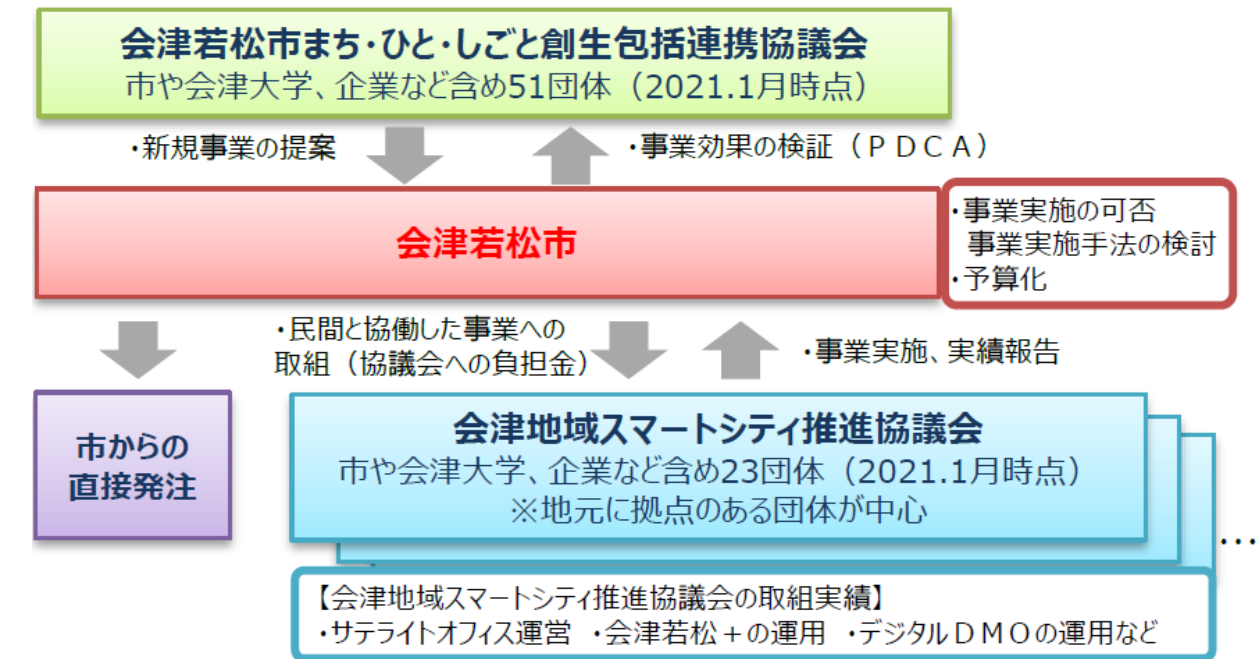
- 地域課題・政策・技術など関連情報を集積する役割
- データに基づく新たなサービスの開発を進めるために必要な共同体

住民目線のまちづくりを進める中で、デジタル技術やデータ、知見を持つ企業・研究機関等との連携により、地域課題解決・新サービス創出

#### ■ スマートシティの類型

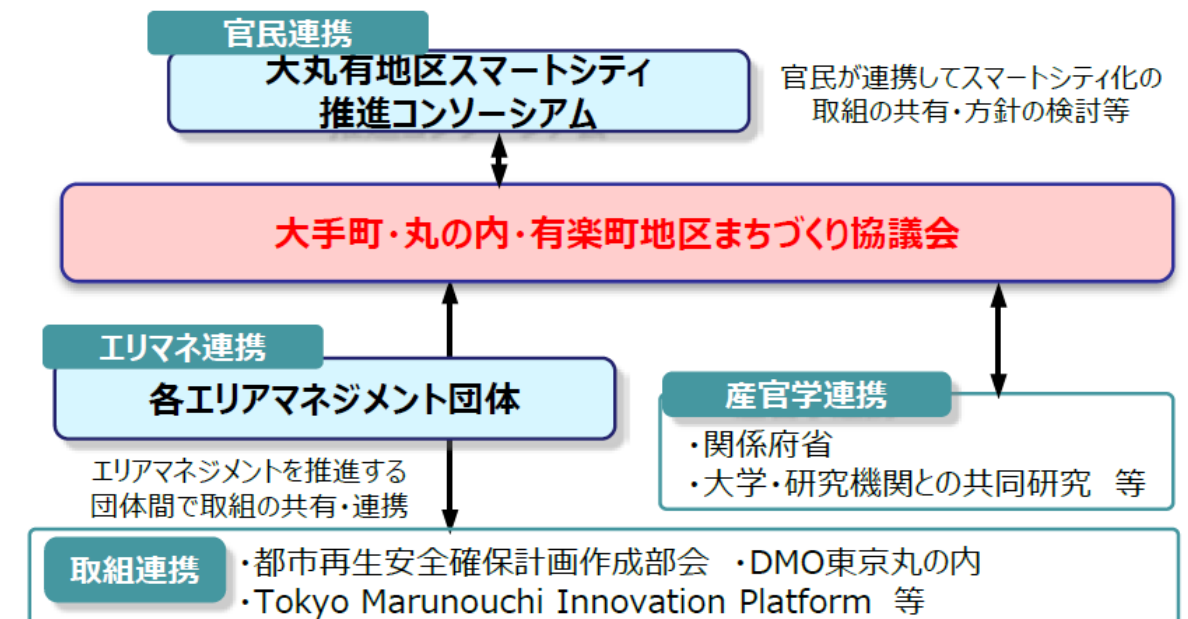
##### ● 行政主導型（例：スマートシティ会津若松）

行政が中心となってスマートシティ推進協議会等の体制を整備し、ICT関連産業の集積による産業振興、ICTを活用した生活利便性向上、まちの見える化等に取り組む。



##### ● エリアマネジメント型（例：大手町・丸の内・有楽町地区スマートシティ）

（一社）大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会を中心に、行政や大学、民間企業が参画するコンソーシアムと連携して活動する体制。新技術や都市データを活用した都市機能のアップデートと都市空間のリ・デザインにより、エリアの価値向上を目指す。





## §3. スマートシティの実現に向けたまちづくりの進め方

### 7 共通プラットフォームの必要性

- デジタル技術を活用した各施策実施の効果を高め、持続可能な取組みとする必要
- 効果を高め、持続可能な取組みとするには、取得・活用するデータを相互にやり取りするなど、施策間でのデータ連携が必要
- 更に、市の関連施策ともデータ連携することにより、周南市でのデータを活用したスマートシティの構築に繋がると考える
- そこで、**重点プログラムに位置付けた各施策と市の関連施策により取得したデータを活用、一元管理する、「データ連携基盤」の構築が必要**



IoTデバイス・センサー

家電 人感センサー健康機器 心拍計 公共交通 環境複合センサー

スマートライト 環境センサー カメラ画像データ

オープンデータ

次世代デジタルサイネージ Wi-Fi アプリ利用

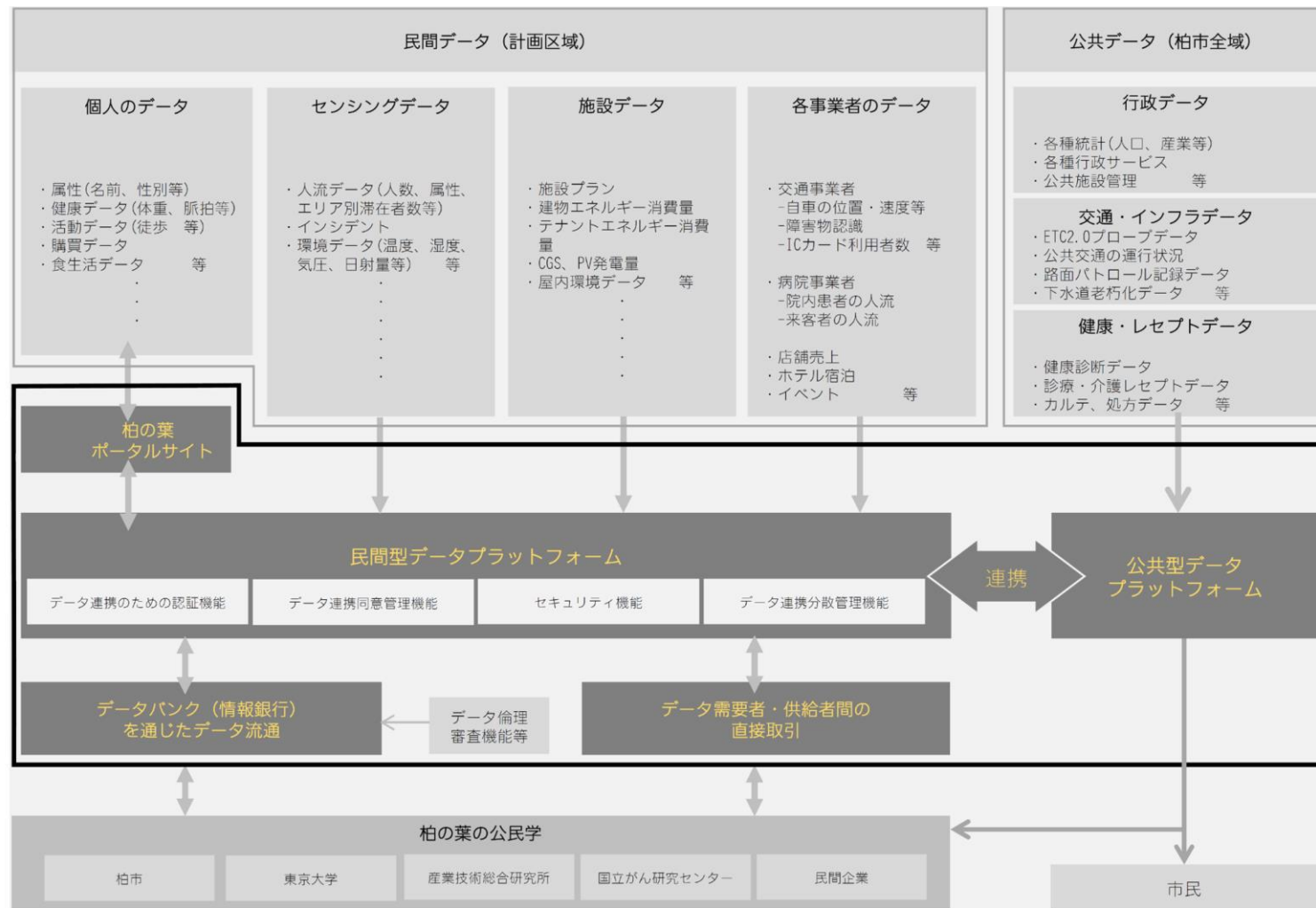


# §3. スマートシティの実現に向けたまちづくりの進め方

## 7 共通プラットフォームの必要性

### 事例：柏の葉スマートシティ 民間+公共データプラットフォームの構築

- 柏の葉スマートシティの特徴として「公・民・学連携」によるまちづくりがあり、「データ駆動」による地域運営を行う上で、各々が所有するデータの種別や特性に応じて、運用方法の異なるプラットフォームを構築する必要
- 主に民間で得られるデータに基づく「民間型データプラットフォーム」と、公共で得られるデータに基づく「公共型データプラットフォーム」
- 柏の葉の公・民・学のニーズに応じた、データの流通・取引の管理機能を有し、データ提供にあたっての個人の同意取得、事業者間のデータの真正性の担保、情報銀行との連携を通じて、データの適正な流通・取引を行うこととしている



出典：柏の葉スマートシティコンソーシアム「柏の葉スマートシティ実行計画」（令和2年3月）

### 事例：国土交通省 PLATEAU

- 国土交通省が進める 3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化のリーディングプロジェクト
- 都市活動のプラットフォームデータとして 3D都市モデルを整備し、そのユースケースを創出
- さらにこれをオープンデータとして公開することで、誰もが自由に都市のデータを引き出し、活用できるようにするプロジェクト
- 2020年度中に東京23区をはじめとする全国約50都市で3D都市モデルを整備し、多様なテーマでユースケース開発やハッカソンを実施

3D都市モデルの構築対象都市 一覧

No.	都道府県	団体名	No.	都道府県	団体名
1	北海道	札幌市	29	静岡県	沼津市
2	福島県	郡山市	30	静岡県	掛川市
3	福島県	いわき市	31	静岡県	菊川市
4	福島県	白河市	32	愛知県	名古屋
5	茨城県	鉾田市	33	愛知県	岡崎市
6	栃木県	宇都宮市	34	愛知県	津島市
7	群馬県	桐生市	35	愛知県	安城市
8	群馬県	館林市	36	大阪府	大阪市
9	埼玉県	さいたま市	37	大阪府	豊中市
10	埼玉県	熊谷市	38	大阪府	池田市
11	埼玉県	新座市	39	大阪府	高槻市
12	埼玉県	毛呂山町	40	大阪府	摂津市
13	千葉県	柏市	41	大阪府	忠岡町
14	東京都	23区	42	兵庫県	加古川市
15	東京都	東村山市	43	鳥取県	鳥取市
16	神奈川県	横浜市	44	広島県	呉市
17	神奈川県	川崎市	45	広島県	福山市
18	神奈川県	相模原市	46	愛媛県	松山市
19	神奈川県	横須賀市	47	福岡県	北九州市
20	神奈川県	箱根町	48	福岡県	久留米市
21	新潟県	新潟市	49	福岡県	飯塚市
22	石川県	金沢市	50	福岡県	宗像市
23	石川県	加賀市	51	熊本県	熊本市
24	長野県	松本市	52	熊本県	荒尾市
25	長野県	岡谷市	53	熊本県	玉名市
26	長野県	伊那市	54	熊本県	益城町
27	長野県	茅野市	55	大分県	日田市
28	岐阜県	岐阜市	56	沖縄県	那覇市

出典：国土交通省 PLATEAU (<https://www.mlit.go.jp/plateau/>)

#### 3D都市モデルの提供価値

- ビジュアライズ (視覚性)**  
都市空間を立体的に認識可能となり、説明力や説得力が向上
- シミュレーション (再現性)**  
立体情報を持った都市空間をサイバー上に再現することで、幅広く、精密なシミュレーションが可能
- インタラクティブ (双方向性)**  
フィジカル空間とサイバー空間が相互に情報を交換し、作用し合うためのプラットフォームを提供

これらの価値が複合的に発揮され、都市のデジタルツイン、そして新たなソリューション創出を実現

出典：国土交通省 PLATEAU (<https://www.mlit.go.jp/plateau/>)